



《発行》  
神戸鈴蘭台高校  
編集部

# WHO健康開発総合研究センター 主催 高校生サミット 姫路で7校が発表 コロナ禍での問題点を考える



↑「グローバルヘルス高校生サミット」の発表を聞く編集部員

10月30日(土)に、WHO健康開発総合研究センターが主催する「グローバルヘルス高校生サミット～高校生からの姫路宣言～」がアクリエひめじで行われた。編集部はオンラインで参加し、視聴した。「コロナ禍における学校での健康行動」を全体テーマにし、兵庫県の高校7校がコロナ禍における4つのテーマについて専門家の指導のもと各高校ごとに研究を行い、発表を行った。その内容を掲載する。

## 共感的SNS利用が心的負担を減らす 姫路西高校



↑グラフを用いて説明する  
姫路西高生

県立姫路西高校は、「学校と生徒のメンタルヘルス」のテーマで研究を行い、「共感的SNS利用」について発表を行った。ここでいう「共感的SNS利用」とは、情報の共有をすただけでなく、感情のキャッチボールをすることである。

コロナ禍以前は感情を共有することで、良好なコミュニケーションを築いていたが、現在はコミュニケーションにも制限がかかり、心の負担が増加している。それを解決するには共感的SNSの利用が効果的だという。そこで、高校生にアンケートを実施し、SNSで感動をシェアすることに関する質問では6割の人が賛成した。否定派には、ネットトラブルの懸念などの意見があった。SNSを利用している人に限定した質問では、SNS上での失敗に関する質問では、誤解によるトラブル、価値観の相違などが挙げられた。

発表者5人は、実際にLINEで、SNSを用いたことによる心理効果について検証を行った。内容について特に制限は設けず、1日に1人1回ずつメッセージを送るというルールで行った。結果、ほとんどはポジティブなメッセージが届く結果となった。本音が言えないことに対する不満の声もあったものの、基本的には悩み・不安が蓄積したらSNSの利用によって減らすことができ、メンタルヘルスの課題の解決につながるだろうと締めくくった。

## 悩みを相談することへの偏見をなくす 兵庫高校

県立兵庫高校も、「学校と生徒のメンタルヘルス」のテーマで研究を行い、「メンタルヘルスに対する偏見をなくして相談に行こう」を発表をした。

コロナ禍の昨今、うつ状態の学生がコロナ前に比べ増加している。在校生に実施したメンタルヘルスに関するアンケートでは、何かしらの悩みを抱える人が74%で、そのうち誰にも相談できない人が2%となっており、相談相手はいるが自分一人で解決する人もいた。そこから、悩みを相談することへの偏見をなくす2つの対策を行った。1つ目はメンタルヘルスチェックシートで、在校生28人に質問を通してメンタルの状態を毎日チェックした。2つ目はInstagramでの情報発信で、メンタルヘルスの現状・心と体のSOSについてなどを発信した。その結果、チェックシートでは心の状態を改善することに効果が見られ、Instagramでの情報発信ではメンタルヘルスに対する正しい知識を伝えることや、メンタル不調に対する偏見をなくすことに効果はあったが、相談するきっかけづくりにはあまりならなかった。メンタルヘルスを保つためには自ら助けを求めに行くことが大切で、「私たち高校生にできることは存在を知らせること、相談しやすい環境を作ることである」と呼びかけた。

## 子どもを地域の支援につなぐ 姫路女学院高校

姫路女学院高校は、「家庭内隔離による生徒の社会問題」のテーマで研究を行い、「コロナ禍による貧困・家庭環境の変化・子どもを地域の支援につなぐ」を発表をした。

子どもの貧困は相対的貧困につながり、日本の貧困は目に見えない貧困である。親の収入が少ないと十分な教育が受けられないため、進学・就学に不利になり、やがて就職後の収入が不安定になる。それによって子ども世代も貧困になり、貧困の連鎖が続く。コロナ禍で収入が減る中、食費などは上昇したため、現在の子どもの貧困化は深刻である。

このことについて、フードバンクはりにまに、支援が必要な人に支援が届かない原因を聞いたところ、「貧困の当事者である子どもに自覚が無い、自覚があってもサポート体制があることを知らない、サポート体制があることを知っていても周囲の目を気にして利用できない」ということがあるという。このインタビューをもとに、子どもたちに支援の情報を提供するために相対的貧困について知る音声付きガイド、支援団体の情報を伝えるサポートマップの作成を行った。その結果、フードバンクについての正しい情報を伝えることができ、その大切さが伝わった。



↑プレゼンテーションの様子

「『貧しいが、困っていない』が、貧困の連鎖を断ち切ることになるだろう」と結論を述べた。